

平成20年10月24日

各 位

初 穂 商 事 株 式 会 社
 代表取締役社長 齋 藤 悟
 (J A S D A Q ・ コード 7425)
 問合せ先
 専務取締役管理本部長 高 野 温 志
 電 話 0 5 2 — 2 2 2 — 1 0 6 6

平成20年12月期 通期 (非連結) 業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年12月期 (平成20年1月1日～平成20年12月31日) の業績予想について、平成20年8月8日付当社「平成20年12月期中間決算短信 (非連結)」において発表いたしました通期業績予想を下記の通り修正いたします。

記

平成20年12月期の業績予想の修正等

(1) 通期 (平成20年1月1日～平成20年12月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	17,500	216	277	126
今回修正予想 (B)	16,743	94	163	68
増減額 (B-A)	△757	△122	△114	△58
増減率 (%)	△4.3	△56.4	△41.1	△46.0

(2) 修正の理由

当社を取り巻く事業環境につきましては、米国のサブプライムローン問題に端を発した国際金融市場の信用収縮により、米国の大型金融機関の破綻及び公的資金の注入が行われるなど金融市場の混乱が拡大してまいりました。また、国内ではその影響により金融機関の融資が厳しくなり、資金調達に苦慮する一部の上場建設会社が破綻するなど建設業界を取り巻く状況は、厳しさを増しております。このような状況の中、当社の業績への影響につきましては、昨年施行された改正建築基準法の影響に加え、景気の減速からオフィスビル、工場、物流拠点の倉庫など大型物件が大幅に減少してまいりました。また、地価や建設資材価格の上昇で新築マンション価格が上昇する一方で、企業業績の悪化から賃金が伸び悩んでいるため購入を差控えるなど新築物件が減少してまいりました。このようなことから、マンション、オフィスビル等に使用される当社の主力商品の軽量鋼製下地材、不燃材は、需要の低迷が長期化することが予想され、通期業績予想を売上高167億43百万円 (前回予想175億円) に修正いたします。

利益面につきましては、売上高の減少に加え、建材需要が低迷するなか、原材料の高騰などにより仕入価格が上昇し、完全に販売価格に転嫁するには至らず、利益圧迫要因となりました。この結果、営業利益94百万円 (前回予想2億16百万円)、経常利益1億63百万円 (前回予想2億77百万円)、当期純利益68百万円 (前回予想1億26百万円) となる見込みです。

なお、上記の業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき、作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因により予想値と異なる場合があります。

以 上